



鎌倉らしさを次世代へ

子育て支援対策で鎌倉市を強い町に

壱 少子化対策と子育て支援

鎌倉市の2024年度出生数は推定764人で、15年前の1286人と比較すると522人の減少となってしまいました。子供の少ない町は寂しい、鎌倉の元気な子供を増やしたい…。子供を産まない理由の多くが経済的な不安、というアンケート結果が出ています。鎌倉市は今年度から妊婦健康診査費用3万円の追加補助などが行われますが、物価上昇に追いついておらず十分とはいえません。更なる出産・育児支援が必要です。又、昨年17万人を切った鎌倉市の人口減少に歯止めをかけるため、空家を利用した子育て世代の移住、定住を促す支援を実施していきたい。

参 防災・減災対策で鎌倉市を安心、安全な町に

いつ来るかわからない、大きな自然災害への不安に対して、市民の安全、安心を護るための防災、減災対策を全力で行います。鎌倉の地形は、海側では津波、山側では崩落、河川では氾濫の危険、心配があります。防災はリスク分散が基本です。防災拠点として進められた市庁舎の移転は、位置条例の改正案が議会で否決されました。予定されていた移転費用の一部で安全な避難所や防災システムを構築し、食料の備蓄等に活用する。地震による災害時には道路が寸断されるため、市民の生命を守ることに最も貢献する支所や消防署、警察署の機能を拡充し、病院とも連携をすることの方が有益と考えます。

貳 大切な子供達にオーガニック給食を

鎌倉の未来を担う全ての子どもたちが健康で元気に成長をするために、オーガニック給食を更に推進していきたい。鎌倉市では学校給食を年2回、オーガニック食材を使って提供をしていますが、これは、【持続可能な社会の在り方】を学ぶという、教育課題に対する提供にとどまっています。



食は体をつくり心を整えます。そのための農業は地域を支え、環境に大きく影響を及ぼしています。漁業などの一次産業の重要性と共に、地域に学び、感謝し、明日へと繋げていく。この好循環を鎌倉市で実現させていきます。成長期の子どもたちに安心安全な給食を提供するのは、最低限の大人の責務だと感じています。



第貳号ピラ

- ゴミ問題とエコシステム
- 地産地消と食糧自給率 UP
- オーバーツーリズム対策

第参号ピラ

- 不登校、自尊史観教育
- インボイス制度の廃止
- 深沢地区再開発



より良い鎌倉に！

正確な情報を得て、自ら判断し、行動を起こせる社会に！